

令和5年度和歌山県名匠

いけ だ ひで たか しゅう ほう
池 田 秀 孝 (号 秀 峯)

◎ 業績及び経歴

昭和21年、橋本市に生まれる。組子細工師である父・池田清吉氏の影響で、幼少期から組子細工に触れて育つ。二十歳過ぎの頃アルミサッシに組子を施すという依頼を契機に、本格的に父の後を継ぎ、組子細工の製作を始める。

紀州高野組子細工とは、「高野六木」を材料として、釘や金具等を一切用いず、手作業で三本の薄い木材を正三角形に組み合わせた「三ツ組手」により幾何学紋様を組み上げる伝統的な装飾技法であり、衝立・欄間・額・置物等を美しく装飾する。

氏は、こうした「三ツ組手」の伝統技法を発展させ三ツ組手の中に材質・濃淡が異なる木片を組み付けることで、紋様だけではなく、人や風景など複雑な絵柄を描き出す「きのくに・千切れはめ込め技法」を独自に編み出した。

本技法の独自性と芸術性は高く評価され、総本山金剛峯寺より高野山伝統技術に承認されている。

また、氏は橋本市の小中学校で組子細工を用いた木工教室や卒業記念制作の指導、橋本市青少年少女発明クラブの指導員として次世代の人材育成活動に尽力しており、誰もが愉しめる紀州高野組子細工の普及に取り組んでいる。

さらに本来、使用に熟練した技術を要する機具について、氏が独自に考案した補助器具を併用することで、経験がなくても組子細工が製作できるよう改良するなど、裾野の広い技術者養成にも取り組んでいる。

紀州高野組子細工師としての熟練の技による作品の製作だけでなく、紀州高野組子細工の発展・継承に大きな役割を果たしており、その業績は多大である。

職 種：紀州高野組子細工製作

住 所：和歌山県橋本市

生 年：昭和21年

主な表彰歴：平成10年 和歌山県知事技能賞
：平成13年 橋本市文化奨励賞